

自動運転EVバス運行事業

一台目について

令和六年二月十六日から始まった、市役所（東部区画整理地内）市役所間での一・六kmという短距離で実施された運行実証実験は、十一月（三三〇日）間の乗車人数が約四三〇〇人で一日平均乗車人数は約十二・五人、総走行距離が約四、八〇〇kmとなりました。約六三〇〇万円の予算です。一人の乗車経費は約一・五万円でした。

二台目について

令和六年度には、自動運転EVバス事業の拡大を図ることを目的として、二台目のEVバスを購入。

車両購入費は全額国負担で、市は事業推進費として約八七〇〇万円を予算化、



※車両のラッピングは2台とも同じ

東部区画整理地内の西側市道五〇〇区間で、ほぼ自動運転となるレベル4の実証実験を行います。

今後の実走行路線の

拡大構想について

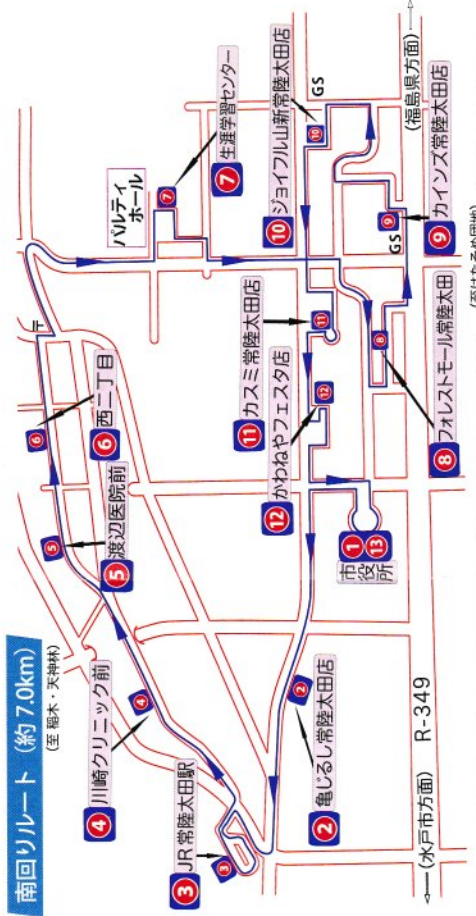
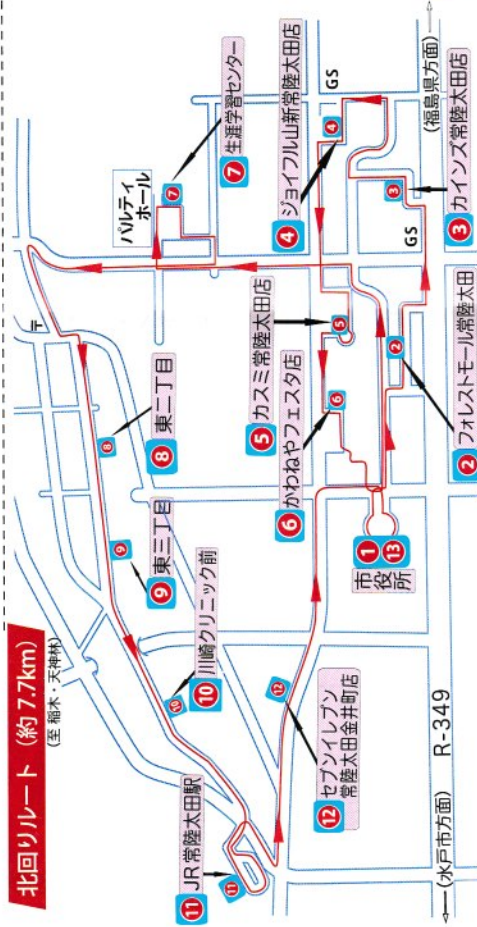
一台目の実証実験から得られたデータを基に課題点を整理し、今後は市役所（JR常陸太田駅）鯨ヶ丘地区（舞鶴橋）新・旧ショッピングゾーン（市役所（七

・七km）を計画区域とし、警察や国・県など関係機関との調整の上、拡大していくとのこと。実績と構想を記載しましたが、経路地域内の住民理解と協力体制の確立のための説明なども重要と考えます。

将来的な拡大の方向性や可能性の検証、及びレベル4対策としての道路整備や停留所設置整備などの事業予算に、市民の税金を使って実証すべき事業などの検証も必要だと考えます。

将来的な拡大の方向性や可能性の検証、及びレベル4対策としての道路整備や停留所設置整備などの事業予算に、市民の税金を使って実証すべき事業などの検証も必要だと考えます。

当クラブ会報創刊号にも記載しましたが、EV



バス運行事業に毎年高額の予算をかけず、その分をタクシーやジャンボタクシーの台数を増やしたり運賃を安くするために補助金に充てたりすることで、より少ない予算で今よりも生活しやすい環境を整えることができると思います。

財政力が低く、既に財源不足となっている事業も抱える本市の状況を鑑みると、今まで以上に事業内容や歳出面をしっかりと検討し、効率的で無駄のない財政運営をしていかなければならないと考えます。

七〇二〇記念

花火大会、あ...
アニバーサリ...
実施した花火...
いものでした。
委員を始め、市...
ンティア、協賛...
方など、多くの...
わせた成果が現...
じます。大会並...
のこと、数か日...
準備、花火大会...
ど、花火大会を...
った全ての方に...
ます。

この事業計画...
三月市議会に提...
が、私たちは市...
くなっていく中...
万発ではなく数...
工夫次第で心に...
会にできるの...
え、市議会や...
ました。

実際には当初...
三割削減し七〇...
ました。そして...
の努力、様々な...
心に残る花火...
とと思います。

今後、経費の...
なく、時期、...
ど、多面的な...
本市のよりよい...
てほしいと思

